（別紙4）　　平成　24　年度

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2993200019		
法 人 名	ウェルコンサル株式会社		
事 業 所 名	フレンド王寺		
所 在 地	奈良県北葛城郡王寺町本町1丁目7－41		
自己評価作成日	平成25年1月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット	
所 在 地	奈良県奈良市登大路町36番地大和ビル3F	
訪問調査日	平成25年1月30日	フレンド王寺1F

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

スタッフ全員底抜けに明るいので、いつもホームはご利用者様の笑い声が絶えません。
スタッフ全員がしのぎを削って、ご入居者様に喜んでいただけるイベントやレクを企画し、実施しています。
どこにも負けない美味しいお料理をお出し致します。オープン以来“おいしい介護食”を目標にスタッフ一同料理の研鑽を続けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は近くに学校や幼稚園、公園があり、回りは緑いっぱいで自然に恵まれた場所にある。前面には少し傾斜のある、歩道が確保された広い道路が通っている。利用者は道路に面した駐車場スペースでお茶を楽しみ、通りがかる人と日常の会話を交わしながら楽しいひと時を過ごしておられる。地域の親しみやすい事業所として根ざしつつある。管理者とスタッフとの信頼関係は厚く、その熱意は利用者へのサービスにうまく反映しており、今後を期待したい事業所である。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	⑴	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念 ①ご入居者の心と体に寄り添い、安心できる生活をお手伝いします。 ②ご入居者の尊厳を守り、自立を支援します。 ③地域に開かれたホームを目指します。 全フレンド共通の理念に基づき毎年事業所年間目標を設定し、達成するための取り組みを行っている。 年間を通しての評価も行っている。	管理者、職員は法人の共通理念を共有し、事業所独自の年間目標をたて、その実践に努めている。	
2	⑵	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会総会の出席やクリーンキャンペーンなどにもできる限り参加させて頂いている。 お天気の時はホームの玄関前の駐車場で体操したり、お茶を飲んだりして道行く方々に気軽に挨拶をしたり話したりする。	自治会に入会し、行事には出来るだけ参加しているが、今のところ内容により利用者の参加は限られている。中学生の体験学習の受け入れや、幼稚園の運動会に招待されるなど交流がある。ボランティアには頻繁に来ていただいている。	地域行事へは利用者自身が出来るだけ参加出来るように、方向付けするのが望ましい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年9月にケア学会を開催し、事例研究を地域のほかの事業所やご家族、地域の人々に向けて発信し、交流を深めている。		
4	⑶	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年の11月から、2ヶ月に1回の間隔で開催し、そこで出た意見や要望をケア会議で話し合っている。	家族、行政職員、自治会長、民生委員、介護支援専門員等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。現況報告の他防災訓練、老人会へのお誘いなど幅広い意見交換がされている。	
5	⑷	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	王寺町にはグループホームの現状を密に報告し、指導をいただいている。また、月1回介護相談員を派遣して頂いている。 推進会議の議事録やグループ内の新聞を届けて担当者と連絡を取り合っている。	王寺町役場とは、連絡を密に行い、現状を報告して、指導してもらっている。月に1度介護支援員の派遣をうけ、両者には運営推進会議にも参加してもらっている。	
6	⑸	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は外部研修等に参加し、学んできた内容を職員に説明、教育している。また、ケア会議や職員研修でも拘束について学んでいる。	玄関の鍵は掛けていないし、身体拘束も行なっていない。管理者は法人本部の研修に参加し、職員にフィードバックし、利用者の尊厳を守ることを確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は外部研修を通して学んできた内容を職員に説明、教育している。また、ケア会議や職員研修でも事例検討会等の取り組みを行っている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修に参加し、権利擁護ついて学んできた内容をスタッフに説明し教育している。 現在、ご入居申し込み中の方の中に成年後見制度を利用される方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約時には重要事項説明書、利用契約書等を文章で示し、声に出して読み上げ説明している。 一方的な説明にならないようにし、疑問点はないか確認して行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及び職員は入居者との日頃からの対応や会話を通じて苦情、不満をくみ取るように努めている。 また、苦情受け窓口ついて説明している。	開設当初は2週間に1度家族会(食事会)を開き意見を聞いていた。現在は3ヶ月に1度開催し、玄関に意見箱も置いて家族の意見を聞くようにしている。ホワイトボードに写真を貼ってスタッフを紹介し、11月からは担当者を決めて馴染みの関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、2つのユニットのリーダーの意見を聞き、最終判断している。また、管理者はケア会議の議長を務め、職員の意見を吸い上げ、管理者会議等に持ち込み検討し、反映させている。	認知症ケア専門士が考案した体操を見学に来た他施設と交流が始まっている。管理者は職員が意見の言いやすい職場作りに努め、働く意欲やサービスの向上につなげようとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	管理者と幹部従業員が参加する会議を不定期に設けており、職場環境等の不具合の発生には早急な対応を図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は新人スタッフ研修やケア会議の場で認知症についてや介護技術について研修を行っている。 認知症介護実践研修や、認知症介護リーダー研修などを計画的に受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は普段から他施設だけでなく、近隣のグループホームにも足を運び、交流を持とうと努めている。 近隣のデイサービスとは勉強会を一緒にするなどの活動を通じて交流している。		

自己	外部	項　　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する問い合わせがあった場合、初期面談には、利用を前面に推し進めるのではなく、まず、ご本人が困っていること、不安なこと、要望等を拝聴するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関する問い合わせがあった場合、初期面談には、利用を前面に推し進めるのではなく、ご家族のご苦労や、努力、おかれている状況に共感し、困っていること、不安なこと、希望や要望などを拝聴するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に直接相談がある時は、大抵グループホーム利用を前提とされているが、相談内容を吟味し、グループホームの支援で本当に良いのか見極めるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、食事の準備など手伝って頂いたり、役割を分担して頂いたりして、暮らしにハリを持ってもらうように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろから連絡を密にとるようにしながら、月1回はスタッフからの一言通信(生活の様子をまとめたもの)や写真、ウェル便りを送付して、本人と家族との絆を大切に守っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の方にはいつでも気軽に面会に来ていただけるよう配慮している。 外出外泊でご家族と過ごされる時は、健康状態の説明や定期薬を渡し忘れないよう注意している。	地元の利用者が大半で、家族の訪問回数は多い。行きつけの美容院に行ったり、家族との外食、法事、墓参りなどこれまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題で会話が弾むように常に入居者同士の人間関係を把握しながら、孤立しそうな利用者をいち早く救えるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人･家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院をしたまま退去されたがいるが、スタッフが立ち代りお見舞いに伺っている。 また、利用者様とスタッフで応援の色紙を作ってお渡しするなどしている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご意見や想いに沿った暮らし方をして頂いている。その型の生活歴や習慣も掘り起こし、その人らしい個性を尊重している。	初回面接で利用者の希望や思い、生活歴などをフェイスシートに記録し、ケア会議を開いて情報を共有している。担当職員を決めて日々の会話や家族の話からも意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴を振り返るシートを作成し、アセスメントに活かしている。 ご家族やご友人からも昔のエピソードを聞き出し、ケアに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の方の過ごし方または心身の状態に対し、気づきノートを作り、把握に努め情報をスタッフが共有し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろからご入居者の意見や要望を聞き集め、合わせて家族カンファレンスを行いまとめている。また毎月のケア会議でスタッフがアイディアを出し合い、介護計画を作成している。	利用者、家族の意見を基に、家族、管理者、ケアマネージャー、スタッフ2名が参加してカンファレンスを開き、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い評価して見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意して日常の生活の様子やバイタル他、食事の摂取量、排泄状態、Dr往診時の診断記録などを記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ内に老健があるので、ご家族による医療行為の必要な病気を患っておられてもご入居をあきらめずいったん老健に入所の上、病状を安定させてからGHに戻っていただく筋道を立てている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	王寺は特に社会資源が豊富でキャンプ場を借りたり、地域のボランティアにコーラスや大正琴の楽器演奏をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の内科往診がある。 また、他の専門医についても往診医に紹介してもらい、ご家族に連絡を取り希望があれば受診して頂いている。	事業所のかかり付け医に全員受診し、その都度家族に結果報告している。希望の医療機関については、原則家族付き添いにて、受診されている。無理なときには有料にてｽﾀｯﾌが付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、本社で雇われた看護師が週1回、全入居者の健康管理を行っている。変化のある時はかかりつけ医と連絡を取って頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際も看護師に医療機関との間に入っていただき、共同がスムーズに進むように助言や調整を行っている。 また、退院時などにはDrとのカンファレンスを似も同行して頂けるように要請している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定し、重度化、終末期に入る前には往診医、看護師、職員がご家族とカンファレンスを行い、方針を決めている。	現在のところ看取りの体制はとっていない。当事業所でのケアの域を超えそうになる前に、家族、往診医、看護師、職員にてカファレンスを行い、適切な医療機関に移っていただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員に周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火事の避難訓練及び消火訓練を予定しており、昨年の12月に初めて1回目の避難訓練を行った。 また、王寺町に協力して頂き、運営推進会議の場を使って、災害時の避難計画を策定している。	年2回場面を想定して避難訓練を実施している。運営推進会議でも自治会長、王寺町役場職員、家族の意見や要望を聴き検討している。	利用者を交えての避難訓練を実施することが望ましい。職員も体験を重ね災害時の利用者の実態を知ることが大切と思われ、また運営推進会議に出ていた家族の不安を解消すべく事業所の取り組みを説明されることを望みます。

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の個性、人格を尊重した声掛け対応を心がけ傾聴、受容、共感に努めている。	個々人のプライドを大切に、声かけもその人に合わせてしている。担当者を決め、細かい情報を周知し、職員間で共有してその人らしい日々が過ごせるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択、献立の希望やレクの内容、理髪の希望、外出の希望等を聞くことは普段の会話の中心になるように全スタッフが心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務は決まった時間に縛られることなく、入居者のペースに合わせて行っている。 自室で過ごされる時間が長い入居者様には約30分に1回程度巡回を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望による髪形や服装にしているが、いつも同じにならないよう声掛けして、支援している。理髪に関しては訪問美容を利用される方と家族様と一緒に近所の理髪店に出かけられる方があり、選択できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	眼で、耳で、鼻で、舌で楽しんで頂けるように毎日の食事はユニットごとで作っており、好みに合うもの、希望のあるものを提供している。季節感や行事食のある食事内容を工夫している。準備、片づけもできる限り一緒に行っている。	利用者には料理の盛付けや後片付けなど役割を決めて出来るだけ食事作りに参加してもらっている。「明るく、楽しく、おいしく」が年間目標でもあるので、食事は大いに楽しんでいただけるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取カロリー、水分量、栄養バランスの情報を共有して管理している。食事摂取量や水分摂取量の記録を基に、摂取量が減っている場合は早期に対応できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き誘導を行っている。 義歯は夜間外していただき、消毒している。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表を作り、昼夜のトイレ誘導を行っている。 出来るだけトイレでの排泄を促している。	オムツ使用者は圧迫骨折をした人のみで、他はトイレを使用されている。昼、夜個々に合わせて誘導し、夜間はセンサーの音で駆けつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食事の提供、寒天、ゼリー等の摂取しやすい形での水分補給も心がけている。 便秘予防に体操を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の生活習慣を尊重し、入浴時間、回数をお聞きしている。 落ち着いて入浴して頂けるように、入浴は1名ずつ、出来るだけ同性介助を行っている。	週に3回、希望の時間に入浴してもらっている。出来るだけ同性介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを大切にしながら、散歩、掃除、食事作り、体操、レクなどの日中の活動を提供することによって心地よい眠りにつけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を勉強するとともに、薬の容量、服薬支援の方法に変更がないか毎時確認している。医師の指示通りに服薬して頂き、症状に変化があれば記録し、医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、調理の手伝い、食器洗い、水やり等一人一人の能力に応じて役割分担している。 趣味をうかがいながら、材料を用意するとともに、取り組める環境づくりをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得たり、スタッフの配置を多くするなど、勤務体制の工夫をし、日々の散歩や買い物、定期的な散髪及び花見、ピクニック、音楽祭などのイベントに参加して頂いている	皆で話し合って、どこに行くか決め、花見やキャンプ場での焼肉など楽しんでいる。毎日の散歩や買い物（おやつ）、散髪など出かけている。	

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、手元にお金を持っておられる方はおられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用する際には、子機を使用し、操作時は職員がお手伝いさせて頂きながらお部屋で、ゆっくりお話しする時間を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆の集まるリビングへは思い思いに過ごしていただけるようソファ、椅子をおいてお気に入りの場所を確保している。季節を感じて頂けるよう常に生花を活けている。	リビングはソファーと椅子を適宜に配置して、お気に入りの場所が出来るように配慮している。道路に面した窓にはレースのカーテンを吊るし、外の道路を行き交う人と交流ができるように少し開けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファと椅子の2つのスペースを用意して自由に行き来して過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ慣れしたんだ家具などを持参して頂き、居室配置もお話を伺いながら、住み慣れた環境に近づけている。	ベッドは事業所で用意しているが、希望により持ち込みも可能である。家具や備品は家族が用意をし、家族との連絡のためにホワイトボードを置いている利用者もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーでほぼすべての場所へ手すりを伝って移動できるようになっている。各居室・トイレ・浴室などのドアに絵やわかりやすい文字にて表示を掲げている。		